

政策・施策体系骨子(案)と委員意見対比表【安心分野】

政策	施策	主な取り組み	委員意見
一人ひとりの子どもが健やかに生まれ育つ社会づくりの推進～子育て満足度日本の実現～	1 次代を担う子どもを社会全体で支える環境の整備	①地域における子育ての支援 ②子育ても仕事しやすい環境づくり	地域には子育ての手伝いをしたいという人が沢山いる。このような人をうまく活用できるような、地域力の底上げも必要。「女性の働く場」「子どもをあずける場」「急なときの対応」の3つともえの支援が必要であり、制度で足りない部分を支えるのが「地域力」(元保育士、元看護師等)
			勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないかと。
			子育て支援策について、高齢者支援よりも少し取組が弱いのではないかと。地域の子どもや家庭に対する支援をもっと充実させる必要がある。
			子育て支援には、きめ細やかに個別支援を行う視点が重要。母親に提供するサービスの選択肢をたくさん用意すると共に、母親と事業、さらに地域をつなぐような仕組みを構築する必要がある。
			子育てとはこういうものだ、という先入観をもたないこと。多様なニーズがある。難しいとは思いますが、支援の面でもたくさんの選択肢がほしい。
			子育て支援、女性支援を行うに当たっては、30代～40代の独身男性が結婚・子育てについてどう思っているか調査してほしい。女性の意識と相当ギャップがあるはず。
			子育ての項目に「働く女性の支援」というキーワードが必要ではないかと。
			子育て支援策について、市町村間で格差、温度差があるので、県からも市町村へ助言、指導してほしい。
			山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていけないが、現役的な働き場には出ていく。
			福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。
			食育については、生活環境部・福祉保健部・教育委員会が連携して取り組んでほしい。
			2 きめ細かな対応が必要な子どもと親への支援
ひとり親家庭、とりわけ母子家庭の貧困対策について、仕事の斡旋まで含めて政策を考えるべき。			
母子家庭の就労支援について、福祉保健部と商工労働部が連携しながら、しっかりと就労につながる仕組みを構築していくことが重要。			
ひとり親家庭はワークライフバランスが整わない。延長保育への助成や子育ての困り事を相談できる場所づくりが必要なのではないかと。			
格差拡大、貧困の連鎖の防止という視点も今後は重要。			
勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないかと。			
3 結婚・妊娠・出産・育児の切れ目ない支援の推進	①結婚・妊娠・出産への支援 ②安全で安心して出産できる体制づくり ③小児医療体制の整備と医療費負担の軽減 ④子どもの健やかな発達と育児不安を抱える親への支援	20歳で子どもを産むのと35歳で子どもを産むのとではどうしても違いがある。子育て支援策に母体の安全に関する教育を入れるべきではないかと。	
		出会う場があるだけでは足りない。声をかける人、場につないであげる人が必要。	
		山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていけないが、現役的な働き場には出ていく。	
		障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。	
		勤務時間が不規則な女性は、どうしても保育園には頼れない。そのような女性と、子育てを支援してくれる高齢者をマッチングさせるとうまくいくのではないかと。	

政策	施策		主な取り組み	委員意見
健康長寿・生涯現役社会の構築～健康寿命日本一の実現～	4	みんなで進める健康づくり運動の推進	①医療保険者との連携等による県民健康づくりの新たな展開 ②データヘルスの活用等による生活習慣病対策の推進 ③健康を支える社会環境の整備 ④介護予防の推進 ⑤総合的な自殺対策の推進	
	5	病気があっても安心して暮らせる環境づくりの推進	①生活習慣病の重症化予防 ②がん対策の推進 ③難病患者等への支援の充実	
	6	安心して質の高い医療サービスの充実	①地域を支える医療従事者等の育成・確保 ②精神科を含む救急医療等医療体制の充実・強化 ③他職種間の協働やICTの活用による在宅医療提供体制の構築 ④患者本位の医療サービスの提供 ⑤県立病院のさらなる機能強化	<p>精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。</p> <p>「精神科医療体制の充実」という漠然とした言葉ではなく、「精神科救急と長期入院の是正」を明確に入れてほしい。</p> <p>平成27年度から地域医療ビジョン策定が開始されるが、人口が減少している地域の医療機能を一律に削減することのないようにしてほしい。</p>
	7	高齢者の活躍と地域包括ケアシステムの構築	①地域貢献活動への参画促進と就労環境の整備 ②スポーツ、芸術・文化機会の確保による生きがいづくりの推進 ③サービス提供体制の整備 ④認知症施策の推進	<p>山間地の農林業支援、子育て支援、教育支援などの分野で、高齢者に現役世代として働いてもらうことが必要。サロンには出ていけないが、現代的な働き場には出ていく。</p> <p>「高齢者を高齢者が支える」、「高齢者と若者が共同で高齢者を支える」という視点がこれまで乏しかったのではないか。</p> <p>各地域の高齢者からは「することがない」という声をよく聞く。生涯現役という仕組みを政策誘導で作っていかないと、これからの高齢化社会を乗り切れない。</p> <p>地域包括ケアシステムについて、市町村格差を作ってはいけないが、市町村を競争させ、最低レベルの格差を作らせて取組を促していくことも県の役割ではないか。</p> <p>認知症介護を経験した人が認知症介護で悩む家庭を訪問する等、高齢者を介護する方への支援を充実してほしい。</p> <p>自分の親が認知症になった時に相談する所がない。専門家につながるようなコールセンターを作ってはどうか。</p> <p>防犯パトロールに加わりたいという高齢者が、どこに相談したら良いかわからないという声を聞く。高齢者の活用にもっと取り組んでほしい。</p> <p>健康寿命を延伸させるには、高齢者に人材が不足している福祉分野で活躍してもらえば良い。そのためにアナログで情報を伝えていくことも大切。</p> <p>大分県は高齢者美術が盛んであり、発達障がい者の美術レベルも高い。心の癒やしとしての芸術という観点について、県立美術館において配慮いただきたい。</p> <p>精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。</p> <p>福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。</p> <p>障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。</p>

政策	施策		主な取り組み	委員意見
障がい者が地域で暮らし働ける社会づくりの推進	8	障がい者が安心して暮らせる地域生活の推進	①障がいや障がい者に対する理解の促進及び権利擁護の推進 ②サービス提供基盤の整備 ③病院や施設から地域生活への移行促進 ④芸術文化・スポーツの振興と社会参加の推進	大分県は高齢者美術が盛んであり、発達障がい者の美術レベルも高い。心の癒やしとしての芸術という観点について、県立美術館において配慮いただきたい。
				引きこもりの方や社会的に不適合となっている子どもたちに対するアートの活用も検討してほしい。 触法障害者支援について触れるべき。 精神科救急・医療についてはもう一段の取組を。特に認知症疾患対策。 「精神科医療体制の充実」という漠然とした言葉ではなく、「精神科救急と長期入院の是正」を明確に入れてほしい。 福祉に対する市町村の力には格差がある。底上げをするための県の支援、調整がますます必要。 障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。
	9	障がい者の就労促進	①障がい者雇用率日本一に向けた支援の充実 ②障がい者の工賃向上のための支援の充実	障がい者雇用で、今後特に力を入れてほしいのは場所の提供、機会の提供。県庁舎や振興局を折々解放してもらって、野菜の朝市や、作ったものを販売させてほしい。また、イベントがあるときに出店させてもらったり、椅子出し等の仕事を発注してもらいたい。
恵まれた環境の未来への継承～ごみゼロおおいた作戦の推進～	10	豊かな自然との共生と快適な地域環境の創造	①自然や生物多様性の保護・保全と適正利用の推進 ②温泉資源の保護と適正利用の推進 ③ジオパークなどの地域資源を活用した地域振興の推進 ④快適な地域環境の保全と環境	県民アンケートでも、「暮らしやすさの重要項目」として、「海・山などの豊かな自然環境」がトップとなっている。豊後大野、姫島がジオパークに認定されたが、もっと自然環境を大切にしていきたいことが求められているのではないかと。 生物多様性戦略は、豊後大野市のみ作成予定で、その他の市町村は作成予定すらない。県の意気込みが市町村に伝わっていないのではないかと。
				ごみゼロおおいた作戦は、豊後大野市のみ作成予定で、その他の市町村は作成予定すらない。県の意気込みが市町村に伝わっていないのではないかと。
	11	循環を基調とする地域社会の構築	①廃棄物の減量化・再資源化と適正処理の推進 ②大気・水環境対策の推進	ごみゼロおおいた作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。
	12	地球環境問題への取り組みの推進	①温室効果ガスの排出削減対策 ②エコエネルギーの導入促進 ③森林の公益的機能の発揮	ごみゼロおおいた作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。 大分県では各家庭でのCO2排出削減の取組が行われているが、こうした地道な取組を続けてほしい。
	13	すべての主体が参加する美しく快適な県づくり	①県民総参加の環境保全活動の推進 ②豊かな環境を守り育てる人づくり ③豊かな水環境の創出	ごみゼロおおいた作戦はすばらしかったが、次の段階として、海洋や大気、源流対策等、もう少し広い視野で考えるプランがほしい。
暮らしの安全・安心の推進	14	犯罪に強い地域社会の確立	①安全・安心なまちづくりの推進 ②子供・女性・高齢者を犯罪被害から守る取組の強化 ③犯罪検挙対策の推進 ④暴力団等組織犯罪対策の推進 ⑤犯罪被害者等支援施策の推進	
	15	安全で快適な交通社会の実現	①交通安全意識の高揚 ②交通秩序の確立 ③交通環境の整備 ④交通事故被害者等支援の充実	
	16	食の安全・安心の確保	①食品関連事業者などに対する衛生管理体制の推進 ②食の安全・安心の確保対策の推進	
	17	消費者の安全・安心の確保と生活衛生の向上	①消費者被害の防止及び消費者教育の推進 ②市町村や消費者団体等との連携・協働 ③生活衛生関係施設の衛生水準の向上 ④動物愛護啓発の推進 ⑤犬・猫の返還・譲渡、不妊去勢の推進 ⑥動物愛護拠点施設の活用 ⑦動物取扱業者の責務の周知と規制の徹底 ⑧大規模災害時の被災動物対策の推進	世間に名の知れた企業が悪質商法を行っている。アイネスにもう一段の努力を、商工労働部には企業側への指導の強化をお願いしたい。
	18	食育のすすめ	①食育の普及啓発 ②健やかな食生活を実現できる県民の育成 ③大分の食で作る魅力あふれる地域づくり	環境と農業と食育とツーリズムについて、それぞれの施策は入っているが、連携した姿が見えない。次回部会には連携策を示してほしい。 世界農業遺産を長期的な視野で環境づくり、地域づくり等に活用してほしい。食が元気になるれば、農業も地域も元気になるため、地域の食文化の発信をしていきたい。また、食育についても長期的な視野を持って取り組んで欲しい。 食育については、生活環境部・福祉保健部・教育委員会が連携して取り組んでほしい。

政策	施策		主な取り組み	委員意見
人権を尊重し共に支える社会づくりの推進	19	人権を尊重する社会づくりの推進	①人権行政の推進 ②人権教育・啓発の推進と環境整備 ③新たな人権問題への対応 ④同和対策の推進	不登校の子どもたちが集まるような団体に土地は譲渡できないと地主から言われた。これは人権の問題だと思う。
	20	男女共同参画社会の実現	①男女共同参画の視点に立った意識改革 ②男女の平等と人権の尊重 ③政策・方針決定過程への女性の参画拡大	
地域社会の維持・活性化	21	つながりを実感する地域社会の実現	①地域福祉を推進する体制づくり ②地域福祉を支えるひとづくり ③多様な地域資源による基盤づくり	悪徳商法の横行、孤独な高齢者、受診難民や買物難民等、高齢者をとりまく環境は年々悪くなっているように感じる。
				触法障害者支援について触れるべき。
				格差拡大、貧困の連鎖の防止という視点も今後は重要。
				障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。
				バスやタクシーの代替ではなく、自家用車の代替機能を果たす、有償ボランティアによる移動支援を推進することが必要。
	22	ネットワーク・コミュニティの構築	①くらしの和づくり ②集落のネットワークづくり ③地域人材の活用強化と多様な担い手の育成・多機能化 ④小規模集落対策の推進 ⑤空き家の適正管理 ⑥生活環境の整備	小規模集落対策、特に買い物弱者対策が重要。買い物ができないというのは集落のコミュニケーションの場がないということ。
中山間地域等直接支払制度について、例えば移住してきた農業をやりたい若者に、集落の面倒も見てもらう代わりに金銭的援助を行う等、人づくりに着目した制度の活用も考えられる。				
地域のオピニオンリーダーの育成にもっと力を入れてほしい。				
キーワードから買い物弱者対策が漏れているのではないかな。				
			障害のある人が担い手不足の農業を支える、高齢者が子育てを支えるなど、すべての県民に居場所と出番のある地域づくりが大切。	
			地域おこしに頑張っている学生等の姿を情報発信することが、地域で頑張りたいという人が動き出すきっかけになるのではないかな。	
安全・安心な県土づくりと危機管理体制の推進	23	災害に強い人づくり、地域づくりの推進	①防災教育の充実 ②地域防災力の強化 ③災害種別に対応したきめ細やかな災害対策の充実、強化 ④消防力の充実強化	災害に強い県土という部分では、ハード面で解決というだけではなく、ソフト面での取組、地域のつながりやコミュニティを強くすることも大事なのではないかな。
				災害時の交通対策について、車を使っはいけないとよく言われるが、高齢者のいる世帯や福祉施設等ではそうはいかない。交通対策についてのガイドラインを作らないと大混乱になる。
	24	大規模災害等への即応力の強化	①救助・救援体制の確保 ②住民への迅速な情報伝達 ③原子力防災体制の整備 ④石油コンビナート防災体制の整備	
	25	県民の命と暮らしを守る社会資本整備の推進	①地震・津波対策 ②浸水被害対策 ③土砂災害対策 ④災害時の復旧や救援活動の支援 ⑤防災情報の発信 ⑥アセットマネジメント	
26	感染症・伝染病対策の確立	①感染症対策(健康危機管理)の推進 ②家畜防疫対策の強化 ③生活環境対策		